

介護福祉従事者への調査

1. 調査内容

1) 目的

福祉現場の状況を把握して、利用者の QOL と職員の働きやすい職場作りを考察する

2) 調査期間

2009 年 6 月 3 日～6 日

3) 調査対象

愛知県の特別養護老人ホーム A 施設において、施設職員 30 名に対して実施

4) 調査方法

6 月 3 日に施設見学をさせていただき、その後、職員の方々に無作為にアンケート用紙を配布。

3 日後の 6 月 6 日にアンケート用紙を回収のために再び施設見学（留置法）

5) 調査項目

「性別」・「忙しさ」・「外国人労働者派遣について」・「辞職願望」・「施設への不満」・「新型特養について（自由回答欄）」・「利用者との意思疎通の有無」・「ヒヤリハット体験の有無」・「仕事の楽しい時、うれしい時（自由回答欄）」

2. 調査結果（回収率 83.3%）

介護の現場では、全職員が「大変忙しい」、「やや忙しい」と忙しさを感じており、人手不足の実態が明らかになった。

利用者との意思疎通では、「できている」21 名（84.0%）、「できていない」4 名（16.0%）であった。この結果、「忙しさ」を感じる中でも「忙しいのに利用者との意思の疎通はできている」。従って、職員の方々の忙しさは、書類記入からきているのではないかと考察した。

ヒヤリハット体験では、「経験あり」という回答が 20 名（80.0%）、「経験なし」という回答が 5 名（20.0%）であった。経験した体験の再発防止が重要であるが、経験していない方々が本当に経験したことがなかったのかのという本質までは見抜くことはできなかった（気付いていないだけではないのか）

3. 活動後の Reflection

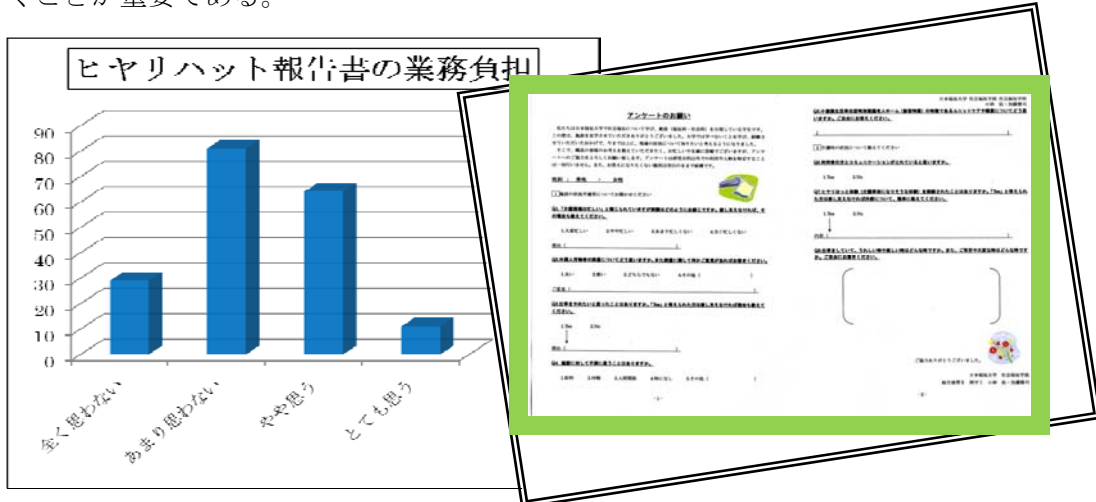
今回のアンケート調査内容から介護現場の実態を正確につかむことができなかった。一つの質問の中に二つの問いが存在する「ダブル・バーレル質問」や回答者が「Yes」と回答しやすい「イエス・テンデンスー」などを考慮せずにアンケートを作成し配布してしまったことは大きな反省である。ただし、今回のアンケート調査が失敗であったわけではない。今回のアンケート調査をプレテストとして、今後のアンケート調査につなげていきたいと思う。

今後、アンケート作成に関する基礎知識を習得することが挙げられ、今回のアンケートから抽出できなかった介護現場の実態に関する質問項目を追加していきたい。

4. 活動から学んだこと

今回の活動を通して、私は様々なことを学ぶことができた。それは、アンケート調査の方法や集計結果を考察することだけではない。自分自身で施設側に電話をして見学日時の

調整やアンケート調査の依頼を行うことで交渉する力も付けることができたと思う。自分自身で施設側と交渉することは大学という場所でもなかなかない機会である。最初はどうしてもうまく用件が伝わらない、話すことができないこともあるかもしれないが慣れていくことが重要である。



今回の活動を通して作成したアンケート用紙や excel での表作成の一部